

■ Scene II 「ダイバーシティの滝」 写真募集

日本館では、日本の食や食文化に関連する写真を一般募集し、このたび、最優秀賞1作品、入賞9作品を選定しました。これらの作品は、日本館の展示Scene II 「ダイバーシティの滝」から流れ落ちる約1,000のコンテンツとして披露される予定です。

11月27日に行われた審査会では、加藤政府代表をはじめ、日本館サポーターの藤田志穂さん、彦坂裕さん（日本館基本計画策定委員会座長）ら審査員により活発な議論が交わされました。

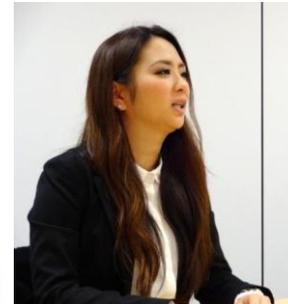
日本館へご来館の際は、ぜひ「ダイバーシティの滝」で多種多彩なコンテンツに触れてみてください。



Scene II DIVERSITY ダイバーシティの滝



加藤政府代表



藤田志穂さん



審査会の様子

最優秀賞 「元気な一生を願う」

子供の安らかな成長を祈念して、両親と祖父母たちが祝います。

(審査員より)

- 家族の健康を願う伝統的な家庭行事の風景。
- 日本の伝統と和食の文化が1枚で伝わる写真。
- 日本の食と祝い事の結びつきを表している。



入賞「美味」

魚の蒸し物の上に、薄切りの大根が乗せられている。
 (審査員より) 季節に合わせた器。伝統の技が光る。



入賞「早苗と夕日」

早苗の田んぼの美しい風景です。

(審査員より) 日本的な田んぼの風景と夕焼けが
 美しいコラボレーションになっている。



入賞「つつら棚田」

まるで黄金色の絨毯が敷かれているような黄金の稲穂です。

(審査員より) 秋の収穫、美しい自然の風景。
 ヨーロッパの秋のワイン畑にも通じる。



入賞「食卓に土の温もりを」

この酒器はイタリアでも3件の意匠権取得済の神戸デザイン

(審査員より) 食器としてのクールジャパン。



入賞「銀座の屋上緑化」

銀座の屋上緑化に馬の堆肥を使い都市と地方をウマく繋いでいます。

(審査員より) 屋上緑化と農業の融合に多様な農の風景を感じた。



入賞「家庭で寿司づくり」

姉弟で寿司を巻いているところです。

(審査員より) 寿司と言ったら職人のイメージを抱くが、手軽に家族で楽しんでいる様子が伝わってくる。



入賞「椎茸栽培」

自然豊かな森林を利用し、原木椎茸を栽培している。

(審査員より) 素朴な生産方法、工夫、食材のイメージで日本の知恵と技が表現されている。



入賞「鏡餅」

大小の丸い餅を重ね、神様へのお供えとして飾るのが鏡餅です。

(審査員より) 日本の鏡餅は白蛇に見立てられることもあり、日本の食文化が表現された一枚。



入賞「合掌集落での田植え」

世界遺産の五箇山合掌造り集落での伝統的な田植え風景

(審査員より) 自然と建築、ランドスケープと農業生産が融合されている様子に人の営みの統合が表現されている。

■ 日本館サポーター活動の紹介

・ 嘉門達夫さん、ミラノでライブを実施し日本館をアピール

シンガーソングライターで、日本館サポーターの嘉門達夫さんは大の万博ファン。そんな嘉門さんが11月15日、ミラノでライブを実施、大盛況にて終了しました。地元のメディアにも、その盛り上がりを取り上げられました。滞在中は、万博会場やミラノ市内の情報発信拠点であるEXPO GATE（エキスポゲート）にも足を運ばれたようです。ライブの様子やミラノ滞在中の様子は嘉門さんFacebookでも紹介されています。

□ 嘉門達夫さんFacebookページ <<http://www.facebook.com/kamon.tatsuo/>>



・ 「食戟のソーマ」原作者の附田祐斗さん、少年ジャンプ誌上で日本館を紹介

『週刊少年ジャンプ』に掲載中の人気マンガ「食戟(しょくげき)のソーマ」原作者の附田祐斗さんが、日本館サポーターに就任されました。「食戟のソーマ」は、実家が下町の定食屋を営む中学生・幸平創真が、エリート料理学校でライバルや仲間と奮闘しながら料理の腕を磨いていく、新感覚グルメストーリー。12月1日発売の『週刊少年ジャンプ』の誌面（220ページ）でも、日本館の紹介、附田さんのサポーター就任についての記事が掲載されていますのでぜひご覧ください。



・ AneCanモデル 近藤しづかさんがオフィシャルブログで発信

人気女性誌『AneCan』のモデル・近藤しづかさんが日本館サポーターに就任されました。近藤さんはモデルとして活躍されているほか、得意の料理を生かし「自炊モデル近藤しづか」として親しまれています。ミラノ在住のご経験があり、イタリア語も堪能。今後は近藤さんのブログを含め様々な場面で情報発信にご協力いただく予定です。

□ 近藤しづかさんオフィシャルブログ <<http://ameblo.jp/shizukakondo/>>



・ 画家の城戸わこさん、日本館のためのポスターを自主制作

2005年愛・地球博の公式ポスター等を制作された城戸わこさんが、ミラノ万博・日本館をPRするポスターを自主制作してくださいました。タイトルは「命・いのり」です。名古屋市などに配布され、東海地方を中心とした各所で掲出されることが期待されています。

■ミラノ万博関連ニュース

・オランダがミラノ万博への参加を表明

オランダがミラノ万博への参加を表明しました。テーマは「Share, Grow, Live (共有し、成長し、生きる)」。パビリオンはインタラクティブで、エンターテインメントと教育の要素も持つ内容になるとしています。パビリオンには、テントや観覧車などが設置される予定で、展示ではオランダの栄養に関する技術発展などが紹介される予定です。



・Short Food Movieの受賞者を発表

ミラノ万博のテーマ「地球に食料を、生命にエネルギーを」をもとに制作された Short Food Movie (ショートフードムービー) の募集が行われ、ローマで表彰式が行われました。受賞したのはブラジル人のAndrio Robert氏です。また、同時に新たなShort Food Movieの募集実施について発表されました。募集期限は2015年3月10日まで。受賞作品はパビリオンゼロ内の752インチのメガスクリーンで上映される予定です。



・8人のシェフが、ミラノ万博アンバサダーとして選抜される

すでに各分野（作家、スポーツ選手、哲学者、役者、建築家など）で70名以上のミラノ万博アンバサダーが選ばれていますが、このたび、料理分野で新たに8名のシェフが選ばれました。シェフはサフラン・茄子・牛乳・米などの食材・香辛料・調味料をテーマに選び、ミラノ万博のテーマ「地球に食料を、生命にエネルギーを」を発信していきます。



■ミラノ万博関連ニュース

・ミラノ万博の開催に合わせ、ヴェネチアで「水」をテーマにしたイベントを開催

ミラノ万博の開催に合わせ、ヴェネチアでも、2015年5月3日より同年10月まで「水」をテーマとしたイベント「Aquae Venezia 2015」が開催されます。ユネスコをスペシャルパートナーに迎えるこのイベントでは、会期中にユネスコのプログラムである「World Water Assessment Programme」が調査した、世界の水に関する問題などが議論されます。



・イタリア国内外の学生をミラノ万博に招待する「スクールプロジェクト」始動

ミラノ万博は、教育のためのプラットフォームとして「スクールプロジェクト」と題する新たな取り組みを行う予定です。イタリア国内外の学生を対象に、ミラノ万博訪問の機会提供が検討されています。万博を訪れた学生は、特定のテーマに沿って万博のパビリオンやクラスターを巡っていくことになる予定です。本プログラムのために、イタリアの教育・大学・研究省が基金を用意したと発表しました。万博のテーマを学生・教師が理解し共有していく取り組みは、会期中に留まらず、万博閉幕後の継続も計画されています。



※本通信に掲載の記事・写真・イラストは、日本館がミラノ万博公社 (Expo 2015 S.p.A.) 等の許諾を得て使用しています。